

3 「埼玉県版人権学習に係る質問紙」の活用について

(1) 「埼玉県版人権学習に係る質問紙」について

「埼玉県版人権学習に係る質問紙」は、[第三次とりまとめ]（平成20年3月）で示された人権教育を通して育てたい資質・能力である知識（知識的側面）、価値（価値的・態度的側面）、技能（技能的側面）を評価の三観点として設定するとともに、九つの「人権感覚育成のための視点」を規準に、計27の質問項目を掲載しています。

学校において、計画的・意図的に人権教育を実施することによる、子供たちの人権感覚の育成状況の変容を見届ける資料として活用できます。

埼玉県版人権学習に係る質問紙 - 2016. 中・高校版 -		埼玉県教育委員会	
No.	質問	回答	
1	誰に対しても公平です。	C-5	5-4-3-2-1
2	「考える」ことが、友達とのコミュニケーションの基礎です。	A-7	5-4-3-2-1
3	友達の気持ちを考えることができます。	C-1	5-4-3-2-1
4	どんな時でも、自分の命を大切にしています。	B-2	5-4-3-2-1
5	正義を守ろうとする気持ちがあります。	B-5	5-4-3-2-1
6	よい集団をつくるため、多くの友達と協力して行動することができます。	C-9	5-4-3-2-1
7	命は、かけがえのない大切なものです。	A-2	5-4-3-2-1
8	友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。	A-4	5-4-3-2-1
9	様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。	B-6	5-4-3-2-1
10	人や動物など生命あるもののぬくもりを感じとることができます。	C-2	5-4-3-2-1
11	身近にある差別について理解しています。	A-5	5-4-3-2-1
12	人は、誰も一人一人価値ある存在です。	A-1	5-4-3-2-1
13	集団の一員として責任を果たそうとしています。	B-8	5-4-3-2-1
14	自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。	C-7	5-4-3-2-1
15	よい集団を作るには、積極的に意思決定に参加することが大切です。	A-9	5-4-3-2-1
16	集団の一員として多くの人に支えられていることに気づいています。	C-3	5-4-3-2-1
17	自分の役割を責任をもってやり遂げることができます。	C-8	5-4-3-2-1
18	差別を許さない態度を身につけています。	B-4	5-4-3-2-1
19	よりよい集団づくりに自分から進んで参加しようとしています。	B-9	5-4-3-2-1
20	自分は、たった一人の大切な存在です。	A-3	5-4-3-2-1
21	ありのままの自分を大切な存在と受け止めようとしています。	B-3	5-4-3-2-1
22	集団生活の中で、責任を果たすことは大切です。	A-8	5-4-3-2-1
23	友達とのコミュニケーションを深めようと努めています。	B-7	5-4-3-2-1
24	友達をいつも大切にしようとしています。	B-1	5-4-3-2-1
25	誰とでも分け隔てなく、協力して取り組むことができます。	C-4	5-4-3-2-1
26	様々な価値観をもった人々と暮らしていることを理解しています	A-6	5-4-3-2-1
27	自分と異なる価値観を持つ友達に対しても関わるすることができます。	C-6	5-4-3-2-1

<三つの観点>

- A 知識（知識的側面）
- B 価値（価値的・態度的側面）
- C 技能（技能的側面）

<九つの「人権感覚育成のための視点」>

- 1 人間の尊厳・価値の尊重
- 2 生命尊重
- 3 自己尊重の感情
- 4 共感と連帯感
- 5 公平・公正
- 6 多様性の尊重・共生
- 7 コミュニケーション能力
- 8 権利と責任
- 9 参加・参画

(2) 調査方法について

計画的・意図的に人権教育を実施したことにより、児童生徒にどの程度人権感覚を育むことができたかを点検・評価するために、年2回程度調査を実施します。

- ①「埼玉県版人権学習に係る質問紙」は、小学校（1年～3年）版、小学校（4年～6年）版、中・高校版の3種類があります。
- ②各学校の児童生徒の実態に応じて、質問の表現を変える等、内容を改めて活用することも可能です。児童生徒の発達の段階に応じた質問紙にすることで、学校の実態に合ったより正確な人権感覚の育成状況を把握することができます。
- ③各学校の児童生徒の実態に応じて、質問項目の数を減らしたり、測りたい視点にポイントを絞って活用したりすることも可能です。

(例) 児童生徒の実態に応じて、内容を改めた質問紙

- ・質問項目は、9視点を6視点到絞って、合計質問数を27から18に減らしています。
- ・回答の仕方は、5件法でなく4件法にしています。
- ・質問の表現の一部を変えています。

人権学習に係る質問紙 -小学校(4年～6年)版-

4…そう思う 3…どちらかというとそう思う 2…どちらかといえばそう思わない 1…そう思わない

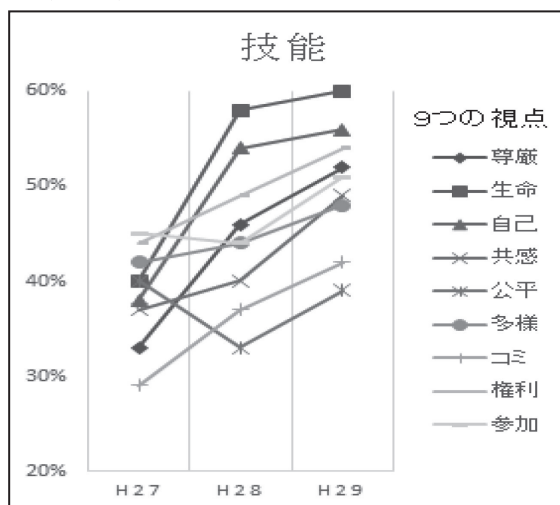
No.	質問	回答
1	友達をいろいろな点から理解しようとしています。	4-3-2-1
2	どんな時でも、自分の命を大切にしています。	4-3-2-1
3	自分はたった一人の大切な存在です。	4-3-2-1
4	様々な考えをもつ人々がいることを理解しています。	4-3-2-1
5	自分の長所も短所も素直に受け止めようとしています。	4-3-2-1
6	よりよい学級づくりに自分から進んで関わろうとしています。	4-3-2-1
7	人や動物の生命のぬくもりを感じることができます。	4-3-2-1
8	自分の責任や仕事を果たすことは大切です。	4-3-2-1
9	家族や友達に大切にされていることに気づくことがあります。	4-3-2-1
10	自分たちで決めたままりや約束を守ろうとしています。	4-3-2-1
11	自分の気持ちを友達に分かるように伝えることは大切です。	4-3-2-1
12	人の外見や考え方・感じ方に違いがあることを受け入れようとしています。	4-3-2-1
13	責任をもって、自分の役割をやりとげることができます。	4-3-2-1
14	自分の気持ちや考えを友達にわかるように伝えようとしています。	4-3-2-1
15	友達との学び合いを大切にしながら、物事を進めることができます。	4-3-2-1
16	よい学級を作るには、進んで友達と関わるのが大切です。	4-3-2-1
17	命はかけがえのない大切なものです。	4-3-2-1
18	よい学級をつくるために、友達と協力することができます。	4-3-2-1

(3) 集計について

実施した質問紙を集計することで、各学校の人権感覚の育成に係る成果や課題が明確になり、課題解決に向けた具体的な取組を考える上での資料とすることができます。

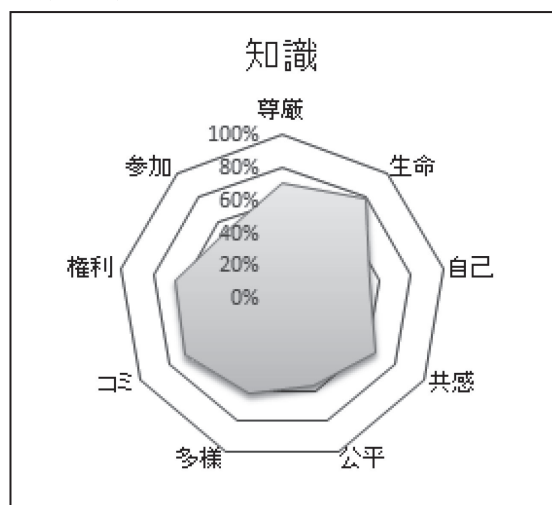
- ① 観点や視点ごとに集計し、推移をグラフ化することで、人権感覚の育成状況を発達の段階や指導内容と関連して把握することができます。
- ② 九つの視点の数値をレーダーチャートで表すことで、他の視点との比較が容易となり、視点ごとの育成状況を客観的に把握することができます。

(例1)



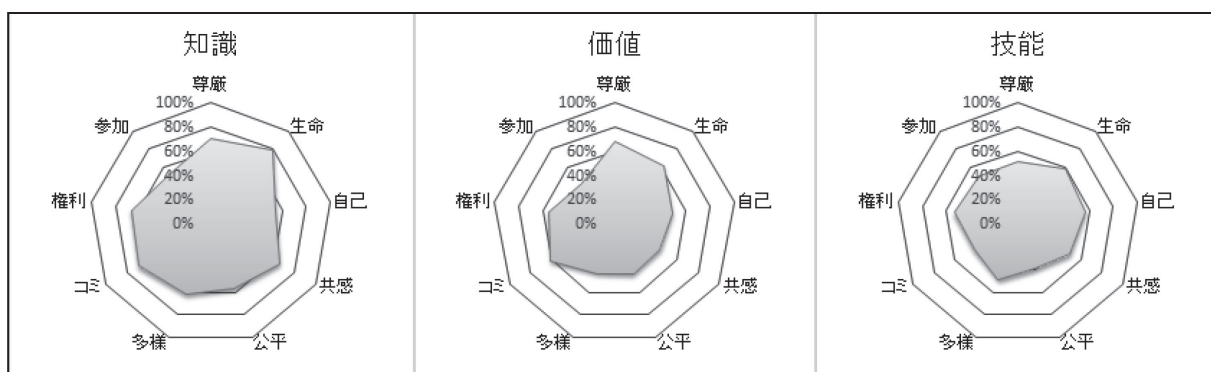
各視点に伸びが見られ、実践した指導に効果があったことが分かります。今後も指導の継続が望まれます。

(例2)



視点別に見ると、「参加・参画」「自己尊重の感情」「公平・公正」の視点は、他よりやや低い状況です。今後は、この視点に関する指導を、より工夫することが望まれます。

(例3)

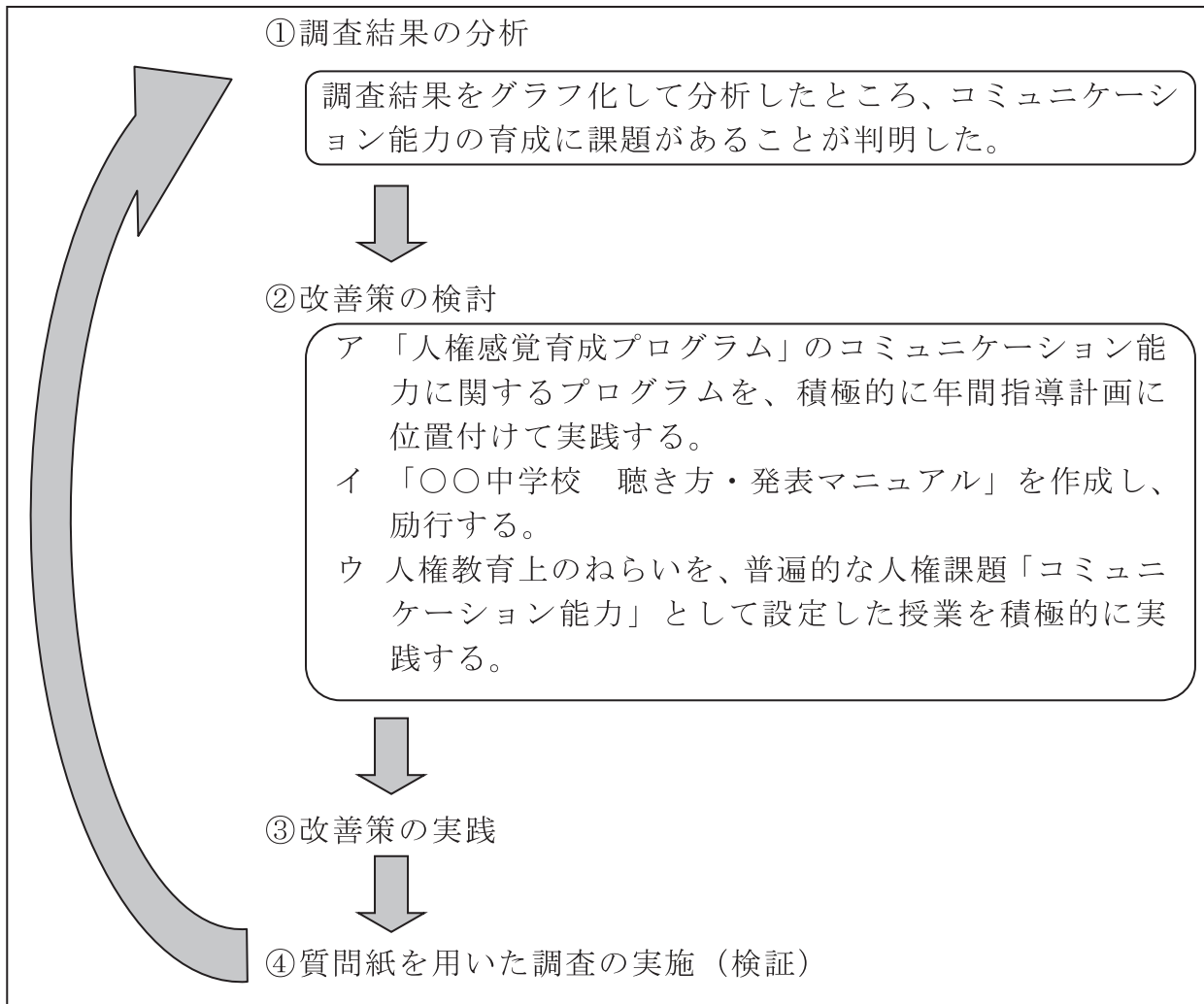


「知識」「価値」「技能」の観点別に見ると、「知識」に比べて「価値」「技能」の方がレーダーチャートの広がり（着色部の面積）が少ないことが分かります。今後は、「価値」「技能」、つまり「人権感覚」の育成に一層指導の重点を置くことが望まれます。

(4) 結果の活用について

質問紙を用いた調査によって、成果や課題を明確にすることができます。さらに、成果は意識して伸ばさせたり、課題に対しては改善策を考えて実践したりすることで、児童生徒の人権感覚を具体的に育成していくことができます。

(例) 中学校での活用例



質問紙の調査結果を分析し、課題解決のための改善策を考えます。その改善策を一定の期間実践した後、再び質問紙を用いた調査を実施して結果を分析し、改善策に効果があったかどうかを検証します。

このようなPDCAサイクルにより、人権感覚の育成の指導方法等について、具体的に改善を進めていくことができます。